

士幌高 チーズの研究に取り組む渡部教諭

・【士幌】士幌高校の渡部哲哉教諭(32)はこのほど、スイスなどで開かれた「第25回酪農における職業教育と指導の国際コース」に参加した。日本からの参加者は3人。約2週間のセミナーの終了後も単独でヨーロッパの酪農場を視察。チーズなど乳製品製造を専門とする渡部教諭は「よい経験になった。教育でも生かしたい」と話している。(佐藤いづみ)



スイスでのセミナーを終え、修了書を受け取った渡部教諭

スイス農業教育セミナーに参加

欧州で学んだ 経験生かしたい

渡部教諭は日高豊内静内農業高、酪農学園大卒。4年前に士幌高校に赴任して以来、ゴータやチエターなど高標チーズの製造標準化に取り組んでいる。開催地がチーズの本場で以前から興味があった。西遊からの勤めもあり参加を申し込んだ。

講師がグループディスカッションなどはすべて英語。大学在学中、1年休学しデンマークで研修した経験を持つが、渡部教諭は「専門用語が多く苦別した。終了直後によくよく感覚を取り戻し

同セミナーはラウス公共同研究者の職業教育に関する国際的な研究センター(スベルン)の主催。2年に1回、農業教育者のために開催され、今回は世界から約80人が参加。参加は無料だが、開催費による。毎回研究心が

高い渡部教諭が興味をもち、毎回の研究心がある。渡部教諭は日高豊内静内農業高、酪農学園大卒。4年前に士幌高校に赴任して以来、ゴータやチエターなど高標チーズの製造標準化に取り組んでいる。開催地がチーズの本場で以前から興味があった。西遊からの勤めもあり参加を申し込んだ。

たと言葉にする。セミナー終了後、また1週間、約10年間に研修した経験を生かす。渡部教諭は「研修中もエメンタールやグリニエルの世界的に有名なチーズ製造地を訪問。生産者に積極的に質問をぶつけたという。一足には書かれていない。研究の姿勢にあらそ